

キャラクター名
 終 蓮実 (ひいらぎ はすみ)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス サラマンダー		ワークス	探偵	カヴァー	高校生
	オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	生誕	衝動	闘争	初期侵食率	36 %	
出自	親の理解	経験	小さな成功	邂逅	腐れ縁	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	0	0			3	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	3	1	0			4	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	7		射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達	5	
運転:自転車	2		芸術:			知識:コーヒー	1		情報:UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷炎の剣	白兵	3r+5		Lv+6		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:要人への貸し	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス【想い人】	P	N		
探偵事務所	P 尽力	N 不安		
春日恭二	P 感服	N 嫌気		
如月雪奈	P 純愛	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
C:ウロボロス	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値を-Lv							
氷炎の剣	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	武器生成							
地獄の氷炎	5	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果:	↑に攻撃力orガード値に+Lv×3、どちらかのみを加える							
氷の回廊	1	2	マイナー	視界	-	自動	-	
効果:	移動、移動距離+Lv×2							
クロスバースト	3	4	メジャー	-	-	対決	80↑	
効果:	攻撃力+Lv×4 ダイス-2							
炎の刃	5	2	メジャー	武器	-	対決		
効果:	攻撃力+Lv×2							
無形の影	1	4	メジャー	-	-	-		
効果:	全ての判定を精神で代用 1ラウンド一回							
原初の赤:瞬速の刃	3	4	メジャー	武器	-	対決		
効果:	ダイス+Lv+1							
灰燼に帰すもの	3	4	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果:	攻撃力+Lv×5							
原初の黄:ターゲットロック	3	3	セットアップ	視界	単体	自動		
効果:	攻撃力+Lv×3							
原初の黒:ヒュドラの怒り	5	6	セットアップ	至近	自身	自動	100↑	
効果:	暴走状態になり、攻撃力+Lv×3							
螺旋の悪魔	5	3	セットアップ	至近	自身	自動		
効果:	暴走状態になり、攻撃力+Lv×3							
喰られし贄	3	1	オート	至近	自身	自動		
効果:	ダメージを与えたらそのシーンの間攻撃力+Lv×3							

高校に通いつつ、自らの探偵事務所を持つ、UGNイリーガル。
 探偵事務所は、終探偵事務所といい、これまで結構な依頼をこなしてきた。
 UGNからの依頼もあれば、一般市民からの依頼もあり、部活に所属せず、学校帰りにすぐ探偵事務所に向かう。
 また、何度か殺人現場に御呼ばれたこともあるが、ウロボロスの影を巧みに使い、トリック以前の問題で犯人を当ててきた。
 戦闘スタイルは、武器を作り出し突き刺すといった単純明快なものだが、その破壊力は並みのオーヴァードとは比べ物にならない程。
 金銭面に問題はこれといってなく、一人暮らしだが、それなりに楽な暮らしを送っている。

PC1用
 ・シナリオロイス: 如月雪奈(雪斗)《きさらぎゆきな(ゆきと)》 推奨感情: P純愛/N不安
 ・推奨Dロイス: 『想い人』
 ・カヴァー/ワークス: 高校生/自由
 ・あなたはL市の高校に通う学生だ。UGNに所属しているでもイリーガルであってもいい。だが、どちらにしろあなたは既に幾多の修羅場をくぐってきた英雄である。そのためか、最近では退屈で仕方ない日常を送っているのだ。そのせいで、今はほんの少しでいいからこの日常にスパイスを求めている。そんなときであった、夕暮れ時の美術室で君はある一人の少女(少年)に出会うだろう。君は直感する、彼女(彼)こそが君の求めていたスパイスなんだと。
 ヒロインorヒーローの指定可。

